

美しく生きることは、 日々の努力と感性が積み上げられていくこと。



母と同年にシュヴァリエを叙任し、ともに「麻布サロン」に従事している娘の恵美子さんと その時々テーマカラーで表現される食卓

石川 紀久子 [いしかわ きくこ]

1993年 料理サロン「麻布サロン」を始める。
空間コーディネーター、フランス刺繍、フラワーアレンジメント、書道などの講師資格を持つ一方、器やクロス、漆器デザインのほか飲食店のプロデュースや、健康志向の「マダムキッコ・オリジナルフーズ」なども手がける。
(2015年 シュヴァリエ叙任)



息を呑む空間は、心地よく緑が配置されています



著作「『麻布サロン』はマダムの寺子屋」(講談社刊)

石川さんの主宰する「麻布サロン」は、地下鉄麻布十番駅から徒歩3分の称名寺という寺院の敷地内にある。都心なのに深閑たる佇まいで落ち着いた環境だ。

麻布サロンではお料理をメインに花、食空間、テーブルコーディネートなどが学べる。「マダムキッコ」として生徒さんたちに慕われており、このサロンは1993年から25年も続いているという。

麻布で400年の歴史を持つ称名寺に嫁ぎ一男一女の子育てをした後、サロンを開業した。「美味しい料理をどう作り、どの器にどのように盛り付けるのか。さらにテーブルコーディネートやお花の生け方やアレンジメントをトータルで学ぶことが出来ます」。そして「ここで学んだことを、それぞれのライフスタイルの中で生かして、より生活をエンジョイしていた

だくのがコンセプトです」。

サロンの扉をあけると、その空間には驚かされる。広さとおもてなしの応接ソファの数々、奥にはダイニングテーブルなど。そして、素敵な調度品がバランス良く、空間コーディネートが洗練されて、とても心地よい印象なのだ。

10年ほど前に講談社より「麻布サロン」はマダムの寺子屋」という本を出しており、45歳からの女性の人生の新しい生き方を提案している。ご自分の人生を通じて美しく生きること、そのための感性を磨くことがいかに重要かということを分かりやすく説明している。

今回お話を伺って、食やスポーツや美容を通じて健康に生きることの大切さ、そして何と言っても人と人との出会いを大切に暮らしていくことの意義を改めて教えて頂いた。

その道の一流の人々が集まってくるサロンは石川さんの魅力がもたらすものだろう。チーズを生活に取り入れて自由に、幸せに、楽しく、心豊かなライフスタイルを提案・発信していくこと。しかしそのための努力に時間を惜しまず、教えながら、いくつになっても学ぶ姿勢に感動した時間であった。

東京・麻布

麻布サロン

東京都港区南麻布1-6-31
TEL.03-3452-3748 FAX.03-6809-3551